



「花間笑語」と江戸小咄との関係について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-12-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 湯城, 吉信 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00007672

『花間笑語』と江戸小咄との関係について

湯城吉信*

On the Relation between *Kakanshogo* and Funny Stories of the Edo Era

Yoshinobu YUKI*

ABSTRACT

The aim of this paper is to compare stories in *Kakanshogo* and those of Edo Kobanashi (funny stories of the Edo era). *Kakanshogo* is one of the collections of funny stories in the Edo era written in classical Chinese language. On the stories collected in *Kakanshogo*, there are some theories. One says that they are merely translations of Edo Kobanashi (written in Japanese language). Another says that they have influence on Edo Kobanashi. Another says that they preserve funny stories of the Edo era that cannot be found in Hanashihon (published funny stories). To verify these theories, the author made thorough investigation into Hanashihon, and compared every story in *Kakanshogo* with those of Edo Kobanashi specifically. It is concluded that many stories in *Kakanshogo* originated from Edo Kobanashi, but some are not funny stories and originated from essays or historical stories of the Edo era that were read in Kaitokudo school which the author of *Kakanshogo* belonged to.

Key Words: Edo Kobanashi (funny stories of the Edo era), classical Chinese language, *Kakanshogo*, Kigen Mimura.

本稿は、『花間笑語』所収の全 159 話について、主に江戸小咄との関係を探ることを目的とする。

『花間笑語』は江戸時代の儒者三村其原(1762～1825)著の漢文笑話集である(自序 1808 年)。

『花間笑語』所収の話については、従来、単に江戸小咄の漢文訳に過ぎないとする説⁽¹⁾、江戸小咄への影響を示唆する説⁽²⁾、噺本に見られない小咄を保存している可能性を示唆する説⁽³⁾などがある。いずれも、『花間笑語』所収の話の来歴を調べることは確定できない。

先行研究には、石崎又造『近世日本に於ける支那俗語文学史』がある。石崎は『花間笑語』所収の 30 話について江戸小咄などの類話を指摘している(石崎 p.335)。他に、岡雅彦が 4 話(1,2,158,159)について出典を指摘している(岡 p.455)。

それに対して、本稿では全 159 話について調査を行い、先行研究の訂正、補足を含め 80 話余りについて新発見があった。一方、未詳のものは 56 話残った。

調査範囲は、『江戸小咄辞典』『江戸小咄類話事典』『噺本大系』(ただし、『花間笑語』に先立つもの)を中心とする。筆者の見落としを除けば、未詳の話の出

典は本稿の調査範囲以外に求めるべきだということになる。

テキストは、懐徳堂文庫本を使用した。若干の字句の異同を除けば『国文学未翻刻資料集』中の翻刻と同じである。

凡例

- ・題名(ゴシック体) 筆者が付けた(原文にはない)。後の< >内は筆者が付けた分類。「cf.」の後の数字は、内容が特に関係の深い話の番号。
- ・同話 基本的に一致する話。複数ある場合は類似性の高いもの順。類似性が同等のものは出版年代順。各書、『書名』発行年、巻数「話の題名」の順に列挙。「*」の後は『花間笑語』の話との違い。「*A→B」は『花間笑語』でAとあるところが、当該話ではBとあることを示す。「*？」は内容未確認のもの。最後の()内は、実見した本とその頁(「* a(b)」とは和綴じ本の「*葉表(裏)」)。書名は末尾の「書名略称(参考文献)」参照。
- ・類話 類する話。同話との違いは相対的で絶対的な基準はない。
- ・参考 出典についての関連情報。

2003 年 4 月 9 日受理

*一般教養科(Department of Liberal Arts)

1. 蛇に呑まれた医者 <空想>

(同話)『立春噺大集(上)』(君竹撰)1776 卷1「医者
の才覚」* 医者→藪医者(大系 10 p.230)(岡 p.455)
『軽口独狂言』1765 卷2「蛇の毒あたり」* 前振
りなし(集成 p.387)

2. 金を釣れば魚はいらぬ <皮肉>

(同話)『軽口初笑』1726 卷3「長者富にあかず」* 賀
茂川で、鯉→沙魚(集成上 p.333)(辞典 p.278)
『口拍子』1773「釣」* 河浜→船、鯉→鯛(大系 9 p.121)
(辞典 p.278)
(類話)『茶のこもち』1774「つり」* 人物2人(大系 10
p.33,岩波中 p.233)
『胡廬百転』1797 * 金→名剣、鯉→溪鱸(46a)(辞典
p.278)

3. 鞠は柳の実 <田舎者,無知> cf.37,100

(同話)『茶のこもち』1774「鞠」* 前半余分あり(大
系 10 p.34,岩波中 p.234)(事典 p.5)
(類話)『あられ酒』巻5 * ?(石崎 p.336)
『居合刀』1704 巻1 * ?(石崎 p.336)

4. 父も昔は賢かった? <智恵>

(類話)『(?)』「親不孝のむくい」* 浪人の子が侍に
あこがれる(田辺 p.164)

5. 刀を右に挿す <世間,皮肉>

未詳

6. 新居祝いにお棺の話(新居祝いに失言) <とんま>

(同話)『軽口太平楽』1763 卷3「粗相な男」(滑稽 11
p.231)(事典 p.27)(辞典 p.78)
『軽口豊年遊』1754 卷3「そゝうな男」(大系 8 p.229)
『一の富』1776「移徙」* 咎めるのは亭主(大系 10 p.221)
『軽口筆彦咄』1795「新宅悦」* 咎めるのは亭主、
材木がよく燃えそうだとも言う(大系 12 p.299)
『笑の友』1801 京都巻2「言直し」* 咎めるのは亭主
(大系 14 p.8)
(類話)『落咄臍くり金』1802「家見」* 寺が近いこと
を言う(大系 14 p.59,岩波下 p.85)
『落咄臍くり金』1802「新宅」* 湯灌場(死体を洗う
場所)みたいだと言う(大系 14 p.57,岩波下 p.81)
『当世口まね笑』1681 巻5 第3「新宅にてさしあひを
云事」* 火事の時竹がうるさいと言う(大系 5 p.176)
『醒睡笑』巻7「いひ損ハなをらぬ」第10 * 「焼け
る」という語を言う(大系 2 p.166)
『醒睡笑』巻7「いひ損ハなをらぬ」第3 * 「比一」

という名の座頭(大系 2 p.165)

7. 死体は自分ではなかった! <とんま>

(同話)『絵本噺山科』1789 ~ 巻4「水の月」(辞典 p.344)
『笑眉』1712 巻5 第12「五兵衛が安堵」(滑稽 10 p.574)
(辞典 p.344)
『夜明鳥』1783 上巻「片意地」(大系 12 p.63)
『かす市頓作』1798 巻3「袈裟切にあぶなひ事」* ?
(辞典 p.344)

8. 靴も履かないケチの話 <けち>

(同話)『夕涼新話集』1776 巻5「金もち」(大系 10
p.315)(事典 p.52)

9. 糞を踏んだかどうかコインで決める <とんま>

(同話)『楽牽頭』1772「糞」(大系 9 p.36,岩波中 p.99)

10. なぞなぞ(化け物) <謎解き>

(類話)『聞き上手二篇』1773「謎」* 象の次に化物(大
系 9 p.165)(辞典 p.300)
『軽口大黒柱』1773 巻2「謎解の名人」* 熊の謎々は
なし、謎々好きの旦那に(大系 9 p.46,滑稽 11 p.347)

11. 自分の名前を忘れる?(上には上) <とんま>

(同話)『さとすずめ』1777 * 女房の名も彫る(大系 9
p.115)(辞典 p.375)
(類話)『かたいはなし』1789「門札」? * 丁稚がそれ
ぞれの旦那を言う(辞典 p.407)

12. 飯炊きの水は手首まで <とんま,理屈>

(同話)『軽口瓢金苗』1747 中巻「習安キハ下司仕事」
(大系 8 p.121)

13. 算盤を知らない人 <無知>

未詳

14. 妖怪馬鹿にすべからず(越侯の別館の妖怪) <皮肉>

未詳

(参考)『水打花』1716-36 巻1「新しいばけもの」*
化け物が褒美を渡す(大系 7 p.279)

15. 殿様米価を知らず <無知>

(同話)『新製欣々雅話』1799 巻3「米相場」* 十斛百
斛→百石千石。道で聞いた→鎌倉で大名の中で1人知
っていて得意になって帰ると家臣から(大系 13 p.241)
(辞典 p.257)

16. 復讐どっちが得? <理屈,比較> cf.104

未詳

17. 目の見えない人が道で会う <目の見えない人>
cf.23,91

(同話)『近目貫』1773「対面」(大系9 p.206)

『夕涼新話集』1776 巻1「昼の闇」(大系10 p.286)

18. 料理高いは薪が高い? <理屈>

(類話)『軽口太平楽』1763 巻5「一人百両の飯代」* 5人5百両、茶袋二緡伽羅でたく(滑稽11 p.237)

19. 平将門の歌は明智光秀の歌? <知ったかぶり>

cf.光秀 151

(同話)『夕涼新話集』1776 巻1「西東」(大系10 p.285)

20. 金を投げて拾う愚者 <とんま>

(同話)『軽口東方朔』1762 巻4「銀ひろい」* 溝にはめる(大系8 p.266)(辞典 p.140)

『今歳咄二編』1773「かね」* 溝にはめる(東洋192 p.59)

『畔の落穂』1777「金ひろひ」* 溝にはめる(東洋192 p.116)

『今歳笑』1778「金ひろひ」* 溝にはめる(大系11 p.165, 東洋192 p.160)

(類話)『聞上手』1773「金拾ひ」* 家の中で投げる(大系9 p.73, 岩波中 p.163)

21. 酔っぱらいの財布を盗み損ねた男 <とんま,皮肉>
未詳

22. 避けていた医者に会って長生きだと言った男

<とんま>

未詳

23. 金を拾って夢だと思った目の見えない人

<目の見えない人> cf.17,91

未詳

24. 人が杯を持っている間に三杯飲み干した男 <程度>
未詳25. 背中におねだり(「こそばい」と言って誤魔化す)
<けち> 色事 cf.78

(同話)『軽口若夷』1742 巻1「背中に無心」(大系8 p.81)

『軽口花笑顔』(後『軽口春の遊』に改題)1747 巻1「背中に無心」(集成上 p.403)(事典 p.246)

『軽口福徳利』(『野鉄砲』)1753 巻1「ミふねがむし

ん」(大系8 p.202)

『鹿の子餅』1772「十字」* 十の字を一以上書かせまいとする(大系9 p.16)(集成上 p.403)

『前戯録』1770「嫖客頓生吝心話」* 縮緬の布団と書こうとする、場所は祇園(8b-9a)

(類話)『昨日は今日の物語』1636 下巻第68 * 若衆が念者に熨斗付けを無心(大系1 p.184)(事典 p.246)

26. 酔って転けた方がまし <理屈>

(同話)『昨日は今日の物語(多和文庫本)』?下巻第65 * 男が僧だとか詳しい(東洋102 p.217)

(類話)『春 俗』1777「七ころび」* どうせ転けるなら起きねばよかった(大系11 p.32)

『鶯笛』1718 頃「七転」* どうせ転けるなら起きねばよかった(東洋102 p.217)

(参考)『笑府』巻13「閨語部」第591「跌」* 同上(大系20 和刻本なし, 岩波文庫本下 p.233)

27. 亀は万年生きていた? <理屈> cf.120

(同話)『御伽噺』1773「放し亀」数日で死ぬ→次の日に死ぬ(大系9 p.213)

『再成餅』1773「万年亀」* 落ちは知り合いが言う(大系9 p.255)

(類話)『醒睡笑』1628 巻2「脛」第21 * 本当に万年生きるか確かめようとする(大系2 p.45)

『はなし大全』1687 中巻第9「亀はなかなかよき見物」* 万年生きるか確かめようとする(集成上 p.196)

『善謔随訳』1775 * 命の長くない老人が亀は万年かどうか確かめようとする(24a, 大系20 p.65)

『笑堂福聚』1804 * 万年生きるか確かめようとする(1b)(辞典 p.146)

28. 天王寺の塔は何重? <とんま>

(同話)『軽口へそ順礼』1746「文盲な算用」(大系8 p.110)

(類話)『茶のこもち』1774「塔」* 浅草の塔(大系10 p.44, 岩波中 p.262)

『富来話有智』1774「五重塔」* 浅草の塔(大系10 p.77)

29. 糊ならこぼれぬ(酔の代わりに糊を買う)

<理屈,とんま>

(同話)『開口新語』1751(3b, 大系20 p.11)(石崎 p.336)

『軽口独狂言』1765 巻5「丁稚の了簡違ひ」(集成上 p.396)

(類話)『軽口御前男』1703 巻2「子が才覚」* 下人→子、急いでいない(大系6 p.239, 岩波上 p.208)(辞典 p.21)

『新製欣々雅話』1799 卷4「文殊」*下人→子、急いでいない(大系 13 p.246)

30. 鉢を割った下女 <とんま> cf.鉢 138
未詳

31. 蕎麦は茶につけて食う? <意地っ張り>
未詳

32. 盗人を舌鼓で判ず <判じ> cf.152
未詳

33. 草履を結ばぬ不精者、笠紐を結ばぬ不精者 <不精>
(類話)『鳥の町』1776「ぶせふ者」*「飯を食べさせてくれ」と言う「そんなことするぐらいならこの紐を結ぶ」(大系 10 p.190,岩波中 p.334)(事典 p.73)

34. 月を取って何にする? <擬人化,とんま,皮肉>
cf.111,131
(同話)『夕涼新話集』1776 卷1「桶の月」*褒美がある(大系 10 p.289)

35. 僧の魚買い(「俗」だと言って「賊」と間違われる) <とんま,皮肉>
(類話)『初音草嚙大鑑』1698 卷2「首かくして尾のミゆる世話」*小僧の代わりに行く。在家から生だこを買いに来たと言う(大系 6 p.124)(辞典 p.304)
『醒睡笑』1628 卷3「自墮落」第6 *小僧の代わりに行く。在家から来たと言う(大系 2 p.69)(事典 p.28)
(参考)石崎は以下2書を「支那的要素」として挙げる。
『笑府』1768 *?(石崎 p.335)
『笑林広記鈔』1778「赤壁賦」*賦を賊に間違えて読み、賊を追い払う(大系 20 p.304)(石崎 p.335)

36. 「おし」かと思ったら鮎を舐っていた話
未詳
(参考)『善謔随訳』1775 *挨拶しないのは鮎を舐めているから(4b,大系 20 p.45)

37. 鞠を知らない陸奥の人 <田舎者,無知> cf.3,100
(同話)『飛談語』1773「鞠」*洛→江戸(大系 9 p.79)
(類話)『昨日は今日の物語』1636 下巻第30 *鞠を生き物だと思い殺そうとする(大系 1 p.172)
『醒睡笑』1628 卷5「人はそだち」第11 *鞠を生き物だと思い殺そうとする(大系 2 p.126)
『鹿の子餅』1772「朝鮮人」(大系 9 p.20,岩波中 p.56)(事典 p.4)(石崎 p.336)

38. 宿屋の目印一鳥がとまっていた <とんま>
(類話)『醒睡笑』1628 卷1「鈍副子」第26 *鳥→鳶(大系 2 p.25)(事典 p.38)(石崎 p.336)
『昨日は今日の物語』1636 上巻第13 *鳥→鳶(大系 1 p.143)(辞典 p.413)
『善謔随訳』1775 *使いに出す小僧(28a,大系 20 p.69)(辞典 p.413)
『日待ばなしこまざらひ』1684-1688 下巻*?(辞典 p.413)

39. 梯子を貸さなかった報い一目には目を(梯子の報いを宴具で) <理屈>
(類話)『露新軽口はなし』1698 卷4 第12「利根なき人に物かすこと」*梯子の報いを風呂桶で(大系 6 p.214)(石崎 p.336)
『軽口ひやう金房』1688-1704 卷2 第17「二人共にしわき者の事」*箒の報いを梯子で(大系 6 p.274)
『富來話有智』1774「吝い奴」*いろいろ貸してあげなかった報いを梯子で(大系 10 p.69)
『当世口まね笑』1681 卷3 第9「しハきもの茶磨をかさぬ事」*茶臼の報いを梯子で(大系 5 p.167)

40. ちり紙をせこるケチ <けち>
未詳

41. 雷の子唐土に落ちる <空想>
未詳

42. 誰か酔人の喜びを知らん(どぶに落ちた酔っ払い) <とんま>
未詳

43. 虎屋を知らない田舎者 <田舎者,無知>
未詳

44. 生きた人恐れず、まして況や死人をや <理屈>
未詳
(参考)懐徳堂では無鬼論が唱えられていた。

45. 唐が好きなら唐の升を使え <理屈>
未詳
(参考)『軽口五色帛』1774「唐ずきの変宅」*ちよつとでも唐に近い方に引っ越す(大系 10 p.18)
『楽牽頭』1772「儒者」*同上(大系 9 p.29,岩波中 p.80)(事典 p.232)

46. 「司」の字の書き方 <漢字> cf.140

- (同話)『楽牽頭』1772「肴売」(大系 9 p.34,岩波中 p.94)
(石崎 p.336)
47. 庭の自慢 <ほら> cf.113
未詳
48. 乞食の自負(人に頼らない乞食) <意地っ張り>
(同話)『立春噺大集(上)』(君竹撰)1776 卷 3 第 29「情が仇」(大系 10 p.239)(辞典 p.192)
49. 風で鶴を釣る? <田舎者,無知>
未詳
50. 武士の妻暗闇を恐れず <臆病> cf.81
(同話)『軽口太平楽』1763 卷 2「臆病な侍」(滑稽 11 p.228)(事典 p.63)
『善謔随訳』1775(19b,大系 20 p.60)
『鳥の町』1776「億病」(大系 10 p.197,岩波中 p.354)
『軽口初笑』1726 卷 2「虎ふす野辺にも連れ」*すべて台詞(集成上 p.323)
『軽口駒さらゑ』1776 卷 4「深夜の雪隠」*?(辞典 p.114)
『初笑福德噺』1776「おくびよう」*?(辞典 p.114)
『猫に小判』1785「臆病」*?(辞典 p.114)
51. 「行き先は知りません」(暴れ馬でどこに行く?)
<臆病>
(同話)『立春噺大集(上)』(君竹撰)1776 卷 5 第 48「馬次第」(大系 10 p.245)
『気のくすり』1779「馬嫌」(大系 11 p.225)
(類話)『軽口あられ酒』1705 卷 4 第 14「馬にのりつけぬ医者」*士→医者(大系 7 p.27)
52. 無芸の若者円を描く? <とんま>
未詳
53. 煎り豆で焼き豆腐を作る? <理屈>
(同話)『立春噺大集(上)』(君竹撰)1776 卷 2「すまたのいり豆」(大系 10 p.232)(辞典 p.410)
54. 風が来るから階段をつぶせ? <とんま,理屈>
(類話)『軽口初笑』1726 卷 2「大物ははつり取」*寒いから(集成上 p.323)(辞典 p.137)
『楽牽頭』1772「真裸」*二階で寝る(大系 9 p.31,岩波中 p.85)(石崎 p.336)
『軽口はなしどり』1727 卷 1「かぜのぎんみ」*?(辞典 p.137)
- 『洗濯こうしや』1781-1789「真裸」*?(辞典 p.137)
55. 暗かったら拓本を見ろ <けち,理屈>
(同話)『譚話江戸嬉笑』1806「石刻」(大系 14 p.195,岩波下 p.112)
56. 主人より前に行きたがる下人(月夜の提灯) <世間>
(類話)『笑話出思録』1755「進退有礼」*提灯を持って後ろに付いているのを咎められた家僕が、旦那様は昼は私が前にいると怒るではありませんかと言う(16b)(石崎 p.336)
『軽口独狂言』1765 卷 3「丁稚の泣き事」*同上(集成上 p.390)
57. 賽銭分だけお願いしろ <けち>
(同話)『年忘噺角力』1776 卷 2「四文銭」*「四文銭の使い方に気をつけろ」と丁稚に言う前振りあり(大系 10 p.156)
(類話)『口拍子』1773「恵方参」*四文銭しかなかったので仕方なく(大系 9 p.112)(辞典 p.233)
58. 蛇(巳)と猿(申)なら鶴で間に合わせ <理屈>
(同話)『年忘噺角力』1776 卷 1「画工の機転」(大系 10 p.152)
『譚話江戸嬉笑』1806「画工」(大系 14 p.199,岩波下 p.122)
59. 文句いいのグルメ <意地っ張り>
(同話)『軽口瓢金苗』1747 下巻「料理の我儘」(大系 8 p.130)
60. 「ぜぬ」と言って何が悪い! <なまり> cf.137
未詳
61. 仄字が多い?(詩作に苦しむ話) <理屈> cf.105
未詳
62. ノック用の孫の手 <理屈>
(同話)『立春噺大集(上)』(君竹撰)1776 卷 3 第 30「通り一編」(大系 10 p.239)
(類話)『春宵一刻』1778「まごの手」*おちが「たたいてください」(大系 11 p.142)
63. 蚩尤は何をした? <謎解き> cf.132,151
(同話)『軽口片類笑』1770 卷 3「利屈のいひわけ」(大系 8 p.317)
『立春噺大集(上)』(君竹撰)1776 卷 1 第 7「利屈のほ

- どき」(大系 10 p.230)
『軽口初笑』1726 卷 3 「^{いくさ}軍見て矢をはぐ」* 黄帝は
どうして危険を冒したか聞く(集成上 p.329)
- 64. 隠居のまずい菓子** <見栄っ張り> cf.155
(同話)『譚話江戸嬉笑』1806「茶菓子」* 木津→根岸、65
話と対(大系 14 p.200,岩波下 p.123)
『立春嘶大集(上)』(君竹撰)1776 卷 1 第 2 「あてちが
ひ」* 木津→東門辺(大系 10 p.228)
- 65. 茶会で鼻毛抜き** <とんま>
(同話)『譚話江戸嬉笑』1806「鼻毛」* 64 話と対(大
系 14 p.199,岩波下 p.124)(辞典 p.331)
(類話)『再成餅』1773「鼻くそ」* 鼻毛→鼻糞(大系 9
p.242)
『^{わらいまゆ}笑眉』1712 卷 1 第 1 「椀飯振舞」* 茶会→ご馳走(滑
稽 10 p.548)(石崎 p.337)
『順会咄献立』1777 卷 5 「頓太郎」* ?(辞典 p.331)
- 66. 淀川の舟で得意客と争う** <へつらい>
(同話)『立春嘶大集(上)』(君竹撰)1776 卷 1 「所自慢」
* 具体的内容はなし(大系 10 p.230)
- 67. 黍団子は臼の糞(猿蟹合戦のパロディ)** <空想>
未詳
- 68. 磁石で客を引く宿屋(漁父の利)** <皮肉,空想>
(同話)『新撰嘶番組』1777 卷 1 「犬骨折りて鷹」?(辞
典 p.214)
- 69. 我慢できず花を咲かせた杜若** ^{かきつばた} <擬人化>
(同話)『楽牽頭』1772「杜若」(大系 9 p.30,岩波中 p.83)
『軽口花笑顔』(後『軽口春の遊』に改題)1747 卷 2 「杜
若の言い合」* あるお寺(集成上 p.406)
- 70. 右足が長いか?、左足が短いか?**
<足の不自由な人,理屈>
(類話)『近目貫』1773「びっこ」* 旦那が「びっこ」
(大系 9 p.194)
『聞童子』1775「びっこ」* 子供に馬鹿にされる(大
系 10 p.128)
『醒睡笑』1628 卷 4 「そでない合点」第 14 * 本人が
答える(大系 2 p.91)(辞典 p.273)
- 71. 川が深いと思いきや** <足の不自由な人>
(同話)『軽口初笑』1726 卷 3 「身をすててこそ浮かむ
瀬」* 場面は伊勢の関川(集成上 p.332)(辞典 p.79)
- 『軽口福徳利』(『野鉄砲』)1752 卷 4 「くしだ川」*
場面は伊勢のくしだ川(大系 8 p.211)(辞典 p.79)
(類話)『笑眉』1712 卷 2 第 9 「川越巡礼」* 秩父巡礼、
安心して入る(滑稽 10 p.557)(石崎 p.337)
『開口新話』1751 * 安心して入る(5b,大系 20 p.13)(石
崎 p.337)
『軽口手葉古の玉』1716 卷 4 「座頭の川わたり」* ?
(辞典 p.79)
- 72. 進入した筈を巡る争い** <理屈>
(同話)『軽口初笑』1726 卷 1 「こぼれさいわい」(集
成上 p.321)(辞典 p.260)
(類話)『笑話出思録』1755「黠智」* 複雑なやりとり
あり(15)
- 73. 狐を食べると勇気が出る?(狐を何匹食べたの?)**
<とんま>
未詳
- 74. 「小人」が地震に遭う?** <空想>
(同話)『軽口福徳利』(『野鉄砲』)1753 卷 5 「小人し
ま」* ずっと長い(大系 8 p.216)
- 75. 鍼の稽古(針を刺されたたいこ持ち)**
<へつらい,理屈>
(同話)『年忘嘶角力』1776 卷 3 「鍼のけいこ」(大系 10
p.160)(事典 p.251)
『楽牽頭』1772「金銀の針」* 場面は茶屋ではない(大
系 9 p.31,岩波中 p.84)
* 主題はたいこ持ちのいじましさ
(類話)『軽口御前男』1703 卷 4 「いひぬけの籠」*
浪人が病人に、折れて腹に入る(大系 6 p.254)(辞典
p.336)
- 76. 煙草とキセルの争い** <擬人化>
(同話)『軽口蓬莱山』1733 卷 5 「たばこ問答」* 詳し
い、最後の台詞「やかましい、出て行け」(大系 7 p.274)
- 77. 耳が遠い老人への内緒話** <身障者,とんま>
未詳
- 78. あの世では添わさぬ(姦婦は殺さず)**
<理屈> cf.色事 25
(同話)『近目貫』1773「^{まおとこ}密夫」(大系 9 p.206)(事典 p.295)
『わらひ鯉』1795「密夫」(大系 12 p.287)
『駿河茄子』1789-1801「密夫」* ?(辞典 p.376)

79. ^{ふるい}篩で美声に? <身障者,理屈>
(同話)『立春噺大集(下)』(蘭庭撰)1776 巻1第5「屏風ばなし」*長い(大系10 p.248)
80. 栄螺を知らない山人 <田舎者,無知>
(同話)『善謔随筆』1775 *栄螺→蛤喇(3a,大系20 p.44)
(石崎 p.337)
『露休置土産』1707 巻5第14「栄螺の壺焼」*食べてしまう(大系7 p.64)(辞典 p.202)
『軽口福徳利』(『野鉄砲』)1753 巻4「さぶるのかはり」*かじる(大系8 p.212)
81. 臆病でも親は頼もし <臆病> cf.50
(同話)『軽口花咲顔』(後『軽口春の遊』に改題)1747 巻1「臆病でも親は頼もし」(集成上 p.402)(事典 p.63)
82. 禁酒の仕方<理屈>
(同話)『聞童子』1775「禁酒」*登場人物は2人、100,200,400日→1,2,3年(大系10 p.124)(事典 p.151)
『軽口瓢金苗』1747 上巻「調法な禁酒」*前振りあり、100,200,400日→3,6,12年(大系8 p.115)
『軽口笑布袋』1747 巻4「禁酒」*100,200,400日→3,6,12年(大系10 p.145)
『軽口五色帑』1774 下巻「禁酒」*100,200,400日→3,6,12年(大系10 p.23)
『太郎花』1789-1801「禁酒」*100,200,400日→5,10,20年(大系13 p.339)
『廓寿賀書』1796「禁酒」*100,200,400日→5,10,20年(『小噺再度目見得』12 p.24,宮尾しげを編,小噺頒布会,1934)
『茶呑友達』1780「きん酒」*?(辞典 p.167)
83. 立ち上がった蛙 <擬人化>
未詳
84. 「またただで使って下さい」(毛抜きをただで使った役人) <へつらい> cf.125
未詳
85. 米寿で升、九十六で銭さし <理屈>
未詳
86. 餌かと思えば童の小便(黄犬白犬) <皮肉>
(同話)『聞上手三篇』1773「犬のとくゐ」*黄犬→黒犬(大系9 p.173)(辞典 p.87)
『笑堂福聚』1804 *白犬→斑犬、「斑」と呼ばれて(15a)(石崎 p.337)
87. 高津の社前の湯豆腐屋 <理屈>
(同話)『鹿子餅』1772「料理指南所」*湯豆腐屋→料理指南所(大系9 p.13)
(類話)『軽口独機嫌』1733 巻1「名物の南禅寺豆腐」*本人と会話していない、答えるのは下女(大系7 p.238)
88. 高津社からの景色(焼き鳥は鳥の火葬場)
<田舎者,無知>
(同話)『新噺庚申講』1797 巻2「三つ巴」*天王寺など余分あり(大系13 p.127)
89. 屁の口止め料(1年分の口止め料) <理屈>
未詳
90. 月の兎の餅つきを確かめに行く男 <空想>
未詳
91. 目の見えない人が物にぶつかっておこる
<目の見えない人> cf.17,23
(同話)『新玉箒』1798 巻4「盲人の間違」(大系13 p.223)
(類話)『鹿の子餅』1772「座頭」*銭湯で人がいないのに挨拶する(大系9 p.15)(辞典 p.424)
『吟咄川』1773「せん湯」*銭湯で人がいないのに挨拶する(集成中 p.266)
92. 男のための『女大学』なんか読むものか!
<反世間>
(同話)『新製欣々雅話』1799 巻1「女大学」(大系13 p.233)
93. たたみの上で死にたくない?(滑稽表太) <理屈>
(同話)『新製欣々雅話』1799 巻4「変物」(大系13 p.245)
94. 借り物の茶壺を割って… <世間,皮肉> cf.30,138
未詳
95. 寝言で「誰」 <皮肉>
(同話)『新製欣々雅話』1799 巻4「盗人」(大系13 p.248)(辞典 p.285)
『露休置土産』1707 巻1「ねごとも時による」*誰→ぶて(大系7 p.39,岩波上 p.275)
『露鹿懸合咄』1697「題手拭」*誰→ぶて(事典 p.113)
96. 大仏と鯨の背比べ(語呂) <空想>
(同話)『噺の大寄』1804～1817(事典 p.220)

97. 雨でも行くし、晴れても行く！(同じ質問にしびれを切らす話) <理屈,世間>
 (同話)『新玉箒』1798 卷 2「旅立」(大系 13 p.213)
 『新口花笑顔』(『吟咄川』1773 改め) 1775「伊勢参り」*少々晴れても行く、のみ(大系 10 p.93,岩波中 p.307)(集成中 p.262)
 『軽口蓬莱山』1716-1736 卷 1「雨中の伊勢まいり」*少々晴れても行く、のみ(大系 7 p.261)
98. 役者の女房(首切られると帰ってくる?) <皮肉>
 (同話)『年忘嘶角力』1776 卷 1「升がへし」*2人の女房は脇役の妻(大系 10 p.153)
 (類話)『再成餅』1773「役者の女房」*話相手は役者(大系 9 p.253)
 『寿々葉羅井』1779「役者の女房」*話相手は役者(大系 11 p.201)(辞典 p.411)
99. 火の用心はご勝手に(酒を飲ましてくれたお礼) <世間> cf.126
 (同話)『開口新語』1751(10a,大系 20 p.18)(辞典 p.28)
 『再成餅』1773「火の用心」(大系 9 p.247)
 『軽口五色帟』1774 下巻「了簡ちがひ」(大系 10 p.25)
 『聞童子』1775「夜廻り」(大系 10 p.120)
 『新口花笑顔』(『吟咄川』1773 改め) 1775「町廻り(其二)」*やや長い(大系 10 p.94,岩波中 p.309)(集成中 p.262)(石崎 p.337)
 『軽口福蔵主』1713 卷 3 第 2「番太郎」*長い(大系 7 p.108)
 『軽口はなしとり』1727 卷 2「ゆきよのひのやうじん」*長い(大系 7 p.158)
 『新玉箒』1798 卷 5「火の用心」*長い(大系 13 p.227)
100. 鞠は4人で遊ぶ物だと知らない下人<無知>cf.3,37
 (同話)『聞上手三篇』1773「まり」*「昨日見た」と言う(大系 9 p.169)
 (類話)『春宵一刻』1778「鞠」*断る文句に(大系 11 p.140)(辞典 p.382)
101. 富士山は半分雪(駿河の人の謙遜) <へつらい>
 (同話)『新玉箒』1798 卷 1「駿河者」*(大系 13 p.210)
 『坐笑産』1773「駿河の客」*まず竹細工を褒める(大系 9 p.106)(事典 p.57)
 『乗合舟』1778「するか客」*まず竹細工を褒める(大系 11 p.157)
 (類話)『正直咄大鑑』1687 卷 3(赤)第 3「あまりの卑下」*富士を田舎山という(大系 5 p.259)(石崎 p.337)
102. 風が吹けば桶屋が儲かる <理屈>
 (同話)『笑話出思録』1755「迂計」(石崎 p.337)
 『巷談奇叢』1768(後『奇談一笑』と改題)「箱匠喜旋風」*長い(6a-8a)(石崎 p.337)
 『絵本軽口福笑ひ』1768 上巻*三味線の箱が売れると言う(辞典 p.115)
 『軽口又おかし』1682 上巻「もって廻りたる事」*指物屋、鼠が戸袋を囓る(事典 p.147)
 『初音草嘶大鑑』1698 卷 4 第 24(25)「分別の仕置」*指物屋、鼠が戸袋を囓る(森 p.173)
103. 盗人に説教される男(主客入れ替わり) <皮肉>
 (同話)『絵本嘶山科』1789-卷 3「しな玉」*?(辞典 p.283)
 『江戸前嘶鰻』1808「盗人」*寝ていた主人が起きる、衆人は登場せず(事典 p.262)
104. 鹿にお金を食べられた男 <理屈> cf.16
 未詳
105. 詩作とお産とどっちが大変? <理屈> cf.61
 石崎は以下2書を「支那的要素」として挙げる。
 (類話)『笑府』1768 卷 2「腐流部」第 39「産諭」*詩作→試験(大系 20 p.212,岩波文庫本上 p.48)
 『笑林広記鈔』1778「腹内全無」*『笑府』に同じ(大系 20 p.304)(石崎 p.335)
106. 偽金で足袋を買う(うしろめたさから勘違い) <皮肉> cf.154
 未詳
107. 蕎麦を食べずに捨てた面倒くさがりや <不精>
 (同話)『新製欣々雅話』1799 卷 4「どうらく」*そば→うどん、懶夫→困窮するやもめ男(大系 13 p.246)
108. 鬼を笑わすおどけ者(おどけ者の地獄の沙汰)<?>
 未詳
109. 魚は夜寝る? <理屈,空想>
 (同話)『鳩灌雑話』1795 卷 2「(無題)」(大系 12 p.324)
 『滑稽即興嘶』1794 卷 4「蛤」*後半なし(大系 12 p.270)
110. 偽秤 <詐欺>
 未詳
111. 水中の黄金(ガラスで水中を見る) <とんま,皮肉>
 cf.34,131

(同話)『軽口花咲顔』1747 巻1「水いらず」(辞典 p.340)
 『現金安売はなし』1775「玻理」*?(辞典 p.340)
 (類話)『かたいはなし』1789「猿知恵」*殿様が両国橋から小柄を落とす(滑稽 11 p.545)(辞典 p.340)
 『絵本臍久良遍』1764-1771 下巻*金儲けのために(事典 p.34)
 『鳥の町』1776「硝子」*金儲けのために(大系 10 p.189 岩波中 p.330)

112. 呉猛を真似て孝行しようとするが… <皮肉>
 (類話)落語「二十四孝」(『落語名作全集』1)(辞典 p.308)
 (参考)徳田進『孝子説話集の研究 近世篇』p.594 が笑話で二十四孝を題材とするものを列挙するが、呉猛の話はない。

113. 鞠人と射人の自慢比べ <ほら> cf.47
 (同話)『軽口東方朔』1762 巻2「芸くらべ」*漢人→極楽東門の門番(大系 8 p.262)
 (類話)『近日貫』1773「強弓」*唐人を射ったと言う(大系 9 p.189)
 『気のくすり』1779「遠矢」*唐人を射ったと言う(大系 11 p.226)(辞典 p.186)
 石崎は以下1書を「支那的要素」として挙げる。
 『胡廬百転』1797 *紀昌が異国の人を射ったと言う(2a)(石崎 p.335)

114. 臆病な剣術の師 <臆病>
 (同話)『新玉箒』1798 巻4「剣術指南」(大系 13 p.221)
 『聞上手二篇』1773「武勇」*うわさで聞く(大系 9 p.155)
 『畔の落穂』1777「剣術」*やられた相手が言う点同じ(東洋 192 p.122)

115. 船弁慶を演じさせられた料理人 <臆病>
 (同話)『新製欣々雅話』1799 巻2「辻能」*庖人→床山(大系 13 p.236)

116. 溺死しない方法 <理屈>
 (同話)『聞童子』1775「水練」(大系 10 p.119)
 『笑話出思録』1755「知命」*墨→灸(石崎 p.337)
 『福の神』1778「水」*墨→縄(大系 11 p.174)
 『笑上戸』1784「水」*?(辞典 p.236)

117. 亡くし物を占う(いかさま占い師)<知ったかぶり>
 未詳
 (参考)『聞童子』1775「占ひ」*どこの子だと怒られた子供が「当ててみな」とやり返す(大系 10 p.118)

『鳥の町』1776「占」*同上(大系 10 p.199)
 『無事志有意』1798「辻八卦」*「誰だ」と言われて「当ててみろ」と言い返す(大系 13 p.198)
 『軽口御前男』1703「まがひ道」*道を尋ねて「自分で占え」と言われ、「占って『お前に聞け』と出た」と言う(大系 6 p.237)
 『開口新語』1751 *同上(2a,大系 20 p.10)

118. 無能も芸のうち?(無能な男、髪結い師に雇わる)
 <理屈>
 (同話)『新製欣々雅話』1799 巻3「一得一失」*雇われ人でなく本人(大系 13 p.241)

119. 馬から落ちてなおも強がる男<理屈,強がり>cf.138 未詳

120. 火打ち(汝できたは私のおかげ?) <理屈> cf.27
 (同話)『稚獅子』1774「火打」*前振りあり(大系 10 p.50)(辞典 p.340)

121. にんべんを鼻に書いてしまった近眼
 <身障者,漢字>
 (類話)『軽口福徳利』(『野鉄砲』)1753 巻2「ちか目のそさう」*伊兵衛を平兵衛にする(大系 8 p.204)
 『飛談語』1773「近眼」*伊右衛門を平右衛門に(大系 9 p.79)(石崎 p.337)
 『軽口蓬萊山』1733 巻2「近目の御手紙」*作兵衛を乍兵衛に、届けられずに持って帰る(大系 7 p.263)

122. 尻にもならぬわ(主人を罵る丁稚) <理屈,世間>
 (同話)『新玉箒』1798 巻5「番頭の佗言」*尻→糞(大系 13 p.228)
 『再成餅』1773「喧嘩(口+花)」*尻→糞、主人→侍、ぶつかって(大系 9 p.242)(事典 p.228)
 『今歳笑』1778「屎と思へ」*尻→糞、主人→侍、水をかけて(大系 11 p.164)
 (類話)『大御世話』1780「小僧」*尻→糞、番頭→家の者、旦那が自分で言う(大系 11 p.275)
 『千里の翅』1773「ひいき論」*尻→糞、主人→近所の者、本人が自分で言う(大系 9 p.231)
 『下司の智慧』1788「長屋」*?(辞典 p.173)

123. 蛍を捕るのが熱い? <とんま>
 (同話)『絵本嘶山科』1789-巻4「八幡守り」(辞典 p.371)

124. 金は消えて小便だけ本当だった(夢中の金拾い)
 <皮肉>

(類話)『夜明鳥』1783 上巻「ひとつは本の事」*連れに知られないよう先に行かせるべく小便する(大系 12 p.66,東洋 102 p.84)

『譚囊』1777 *小便→大便(大系 11 p.133)

『昨日は今日の物語』1636 上巻第 74 *曾呂利の話、追いかけて糞が出る(大系 1 p.161)

125. 吸い殻を消すために唾を落として下さい?(芝居のそそう) <へつらい> cf.84

(類話)『軽口はるの山』1768 巻 4「芝居のそさう」*侍の頭に落とし唾で消す(大系 8 p.299)(辞典 p.276)

126. 葬儀の仕切り屋(ドラを鳴らしお礼する)

<世間> cf.99

未詳

127. 鳩が聞く?(晋恵帝の密議) <とんま,理屈>

(同話)『新製欣々雅話』1799 巻 4「密談」*晋恵帝→御大名(大系 13 p.245)(辞典 p.389)

『独楽新話』1788「豆島」*晋恵帝→殿様(大系 12 p.138)

(類話)『醒睡笑』1623 巻 6「詮ない秘密」第 1 *百姓の豆まき(大系 2 p.148)(石崎 p.337)

『軽口露がはなし』1691 巻 3「人より鳥がこハひ」*百姓の豆まき(大系 6 p.53)

『初音草嚙大鑑』1698 巻 3 第 31「山鳩に耳あり」*百姓の豆まき(大系 6 p.142)

『露休置土産』1707 巻 4「用心ぶかい百姓」*百姓の豆まき(大系 7 p.42)

『前戯録』1770「農夫恐鳩話」*百姓の豆まき(2a)

『笑話出思録』1755「慎言」*農夫と樵夫の話、鳩(石崎 p.337)

128. 胡瓜が真瓜を食べる?(曾呂利話) <語呂> cf.96

(同話)『新製欣々雅話』1799 巻 2「醒睡笑」(大系 13 p.237)(事典 p.161,辞典 p.13)

『曾呂利行状記』(安藤英男『曾呂利新左衛門』すずき出版,1989)

129. せこい寺子屋先生(焼き魚は膳外) <けち>

(同話)『新製欣々雅話』1799 巻 2「性ハ善」*語呂合わせの落ちあり、余分あり(大系 13 p.238)

130. 切れなくても宝剣 <理屈,意地っ張り>

(同話)『新製欣々雅話』1799 巻 2「莫耶の剣」*余分あり(大系 13 p.239)

131. 冬の夜の小便(凍った戸を小便で解かす)

<とんま,皮肉> cf.34,111

(同話)『新玉箒』1798 巻 3「寒中の小便」(大系 13 p.216)

『鹿の子餅』1772「小便」*友人から教えてもらうのではない、1回だけ(大系 9 p.10,岩波中 p.28)

『高笑ひ』1776「雪ふり」*友人から教えてもらうのではない、1回だけ(大系 10 p.281)(石崎 p.337)(辞典 p.227)

『かたいはなし』1789「冬の夜の小便」*一人者が自分で(国会本)

132. 龍は痺れを解くため昇天す? <謎解き>cf.63,151 未詳

133. 澁瓶を花挿しにする成金 <無知>

(同話)『新製欣々雅話』1799 巻 3「尿瓶」*本当にそうならいと喜ぶ、最後のコメントはない(大系 13 p.244)

『軽口豊年遊』1754 巻 3「しびんの花生」*文盲な男が「そんな結構なものではございません」と言う(大系 8 p.228)

『軽口太平楽』1763 巻 3「尿瓶の花生」*『軽口豊年遊』と全く同じ(滑稽 11 p.230)

『うぐひす笛』1781-1788「澁瓶」*『軽口豊年遊』と全く同じ(大系 12 p.166,滑稽 11 p.624)

『善謔随訳』1775 *田舎者が「そんな名のあるものではございません」と言う(32a,大系 20 p.73)(辞典 p.224)

『口合恵宝袋』1754 巻 5「しゅびん」*最近茶の湯を習った人が「それ見ろ」と言う(大系 8 p.254)

(類話)『軽口福徳利』(『野鉄砲』)1753 巻 3「しゅびん」*田舎者が 10 も買うので主人が用途を聞く(大系 8 p.209)

134. 樽から酒を出す(父もこうすればよかった?)

<皮肉>

未詳

135. 仙人の稽古 <とんま>

(同話)『夕涼新話集』1776 巻 3「仙人の稽古」*子→旦那(大系 10 p.303)

136. 暦を逆さまに返した? <文盲,意地っ張り,理屈>

(同話)『新玉箒』1798「無筆」*灸の日を占うためという前振りあり(大系 13 p.214)

『聞上手』1773「暦」*灸の日を占うため隣から借りる、丁稚が指摘(大系 9 p.170)

『初音草嚙大鑑』1698「世ハ逆にミる暦」*灸の日を

占うためという前振り、小女→息子、落ちは「笠を貸すな、逆さにして返すだろうから」(大系 6 p.179)

『そこぬけ釜』1802「暦」*小女→息子、落ちは「笠を貸すな、逆さにして返すだろうから」(大系 14 p.69)

『笑堂福聚』1804 *小女→息子、客がいる、何日か見るため(1b)(石崎 p.335)

(参考)石崎は以下2書を「支那的要素」として挙げる。
『笑府』1768巻1「古艶部」「索債」(2「借牛」)*証文を逆さに持っているのを指摘された富翁が「お前に見せているのだ」と言う(大系 20 p.253,岩波文庫本上 p.13)

『笑林広記鈔』1778 *?(石崎 p.335)

137. 牛蒡売り(ごぼうをごんぼと言う) <なまり>

(同話)『落^{おとし}咄^{ばなし}腰巾着』1804「牛房うり」*客でなく友達が教えてくれる(大系 14 p.166)

(類話)『醒睡笑』巻4「唯有」第28 *大根をだいこ、僧が訛を正すだけで買い物しないので大根売りが怒る(大系 2 p.101)(石崎 p.337)

138. 自ら鉢を割ってしまう主人

<理屈,意地っ張り> cf.30,94

未詳

139. 鯛の頭は戎さんの柄袋?(鯛を知らない木曾人)

<田舎者,無知>

(同話)『笑府商内上手』1804「鯛のあたま」(大系 14 p.171,東洋 196 p.224)

(類話)『軽口大わらひ』1680巻2第9「山家の者鯛をかふ事」*人が鯛だと言うのを庄屋が否定する(大系 5 p.88)

140. 音の字は六百、七百と書く <漢字> cf.46

(同話)『夜明鳥』1783上巻「文字せんさく(其二)」*七百の後に六百、「百安いか」という落ち(大系 12 p.64)(辞典 p.404)

(類話)『聞上手二編』1773「音の字」*前振りあり、聞かれて答えるのではない(大系 9 p.159)(石崎 p.338)

『露新軽口はなし』1698巻4第6「字の書やう」*一度に両方言う(大系 6 p.213)

『千里の翅』1773「音といふ字」*一度に両方言う(大系 9 p.220)

141. 茶代は丁稚の名(天神さんの門前の茶屋) <皮肉>

(同話)『鳥の町』1776「茶代」*京の者が江戸見物で(大系 10 p.196,岩波中 p.351)(事典 p.124)

『笑の友』1801巻3「発明」*田舎者が京都に上って

(大系 14 p.12)

(類話)『臍くり金』1802「茶代」*丁稚が勝手に自分の名を言う(二十助を十五助)(大系 14 p.56,岩波下 p.76)

『江戸前噺鰻』1808「茶代」*丁稚が勝手に自分の名を言う(二十助を十五助)(滑稽 11 p.674)(辞典 p.270)

142. 酒樽で万歳翁になった焙烙売り <空想>

未詳

(参考)『そこぬけ釜』1802「室」*折檻で室に入れられた少年が一晩で十歳から二十歳に(大系 14 p.69)

143. 大魚に飲まれ大人に食われた男 <空想> cf.74

未詳

144. 唐の鶯の旅行疲れ <空想>

未詳

(参考)『今歳咄』1773「唐の雀」*通訳の鶯(大系 9 p.135)(辞典 p.46)

145. 橋の上から落ちてきた魚 <理屈>

未詳

146. 小判と二朱、こまがねに怒る <擬人化>

未詳

(参考)『稚獅子』1774「貳朱銀」*五匁銀と貳朱銀の喧嘩(大系 10 p.56)

147. 煙草の煙を葵の紋所に吹く? <ほら>

(類話)『新口花笑顔』(『吟咄川』1773改め)1775「烟草」*「兎唇」が三輪を吹く(大系 10 p.90,岩波中 p.298)(石崎 p.338)(集成中 p.258)

148. 五粒から吾立へ改名する俳歌師 <字解き>

未詳

149. 梅の絵(画家より大工がよく知っている) <教養>

未詳

150. 身なりで判断する金持ち(一休噺) <世間>

(同話)『一休咄』1668巻3第10「一休乞食となり旦那を謀り給う事」(大系 3 p.42,滑稽 9 p.458)

151. 明智光秀は本当に農民に殺された?

<謎解き> cf.63,132 光秀 19

未詳

152. 代金を払わない神主を名役人がとちめる

〈判じ〉 cf.32

未詳

153. 自分の禪ふんどしがわからぬ粗忽者 〈とんま〉

未詳

154. 稻荷様と間違われた男(どんでん返し、だましはよくない) 〈皮肉〉 cf.106

未詳

(参考)『箕山文稿』「小史篇」『柚園数記』4a にもある(両書では世間の盲信を諷めるコメントがある)。

155. 見栄っ張りの田舎医者馬脚を頭かしらをかしらわす

〈見栄っ張り〉 cf.64

未詳

156. 鴻蔵主、池田恒興・佐々成政いずれの功にもあらずとする 〈歴史〉

未詳

(参考)『柚園数記』16b にある。

157. 木村師春の錆びた槍やり 〈とんま,歴史〉

未詳

(参考)『箕山文稿』「小史篇」にある。前後は『常山紀談』だが同書にこの話はない。こちらでは冒頭に「自越至伏水(越後?から伏見に到る)」とある。

158. 鷲を捕ろうとして天王寺の塔にひっかかる男

〈空想〉

(同話)『鳩灌雑話』1795 卷3「鷲」(岡 p.456) *権介→権助、重衛→十兵衛、天満→天馬(大系 12 p.326)
(類話)黄表紙『嘘多雁取帳』1783 *?(事典 p.91)

159. 好色の弊(弄ばれた京の少年) 〈皮肉〉

(同話)建部綾足『折々草』春の部「歌ぬす人として追出されし条」(『日本随筆大成』2期 21、吉川弘文館)(岡 p.456)

見たのは『漫遊記』1798 か(刊行されたのはこちら)。

以上のように、『花間笑語』所収の話は江戸小咄そのもの(省略はされていても落ちはそのま)の翻訳が多い。またその取材範囲は非常に広い。以下、書物別に並べてみる。

〈出典である可能性が高い本〉

『新製欣々雅話』1799 大阪…13 話

(15,29,92,93,95,107,115,118,127,128,129,130,133)

* 93,95,127,128 は、特に出典である可能性が高い。

『新玉筥』1798 大阪…9 話

(91,97,99,101,114,116,122,131,136)

* 131 は、特に出典である可能性が高い。

『立春噺大集』1776 大阪…9 話

(1,48,51,53,62,63,64,66,79)

* 1 は話の中に出てくる年号が 1776 年で、特に出典である可能性が高い。

『譚話江戸嬉笑』1806…4 話(55,58,64,65)

* 55 と 58 とは他書にない。64 と 65 とが対で登場。

『年忘噺角力』1776 大阪…4 話(57,58,75,98)

『夕涼新話集』1776 大阪…5 話(8,17,19,34,135)

* 各話とも他書に見えないので可能性が高い。

『鳩灌雑話』1795…2 話(109,158)

* 類似性が高く、出典である可能性が高い。

〈出典である可能性のあるもの〉

『軽口初笑』1726…6 話(2,50,54,63,71,72)

* 72 話は他書になし。

『絵本噺山科』1789…3 話(7,103,123)

* 123 話は他書になし。

『軽口瓢金苗』1747 京都…3 話(12,59,82)

* 12,59 話は他書になし。

その他、113 話の『軽口東方朔』、88 話の『新噺庚申講』、96 話の『噺の大寄』、120 話の『稚獅子』も出典としての可能性が高そうである。

〈類話が多いが、他書にも多く見られ、出典として確定しがたいもの〉

『軽口福徳利』1753…6 話(25,71,74,80,121,133)

『軽口太平楽』1763…4 話(6,18,50,133)

『楽牽頭』1772…5 話(9,46,54,69,75)

『童聞子』1775…4 話(70,82,99,116)

〈中国の笑話集及び日本の漢文笑話集との関係〉

『笑府』1768…(26),35?,105,136

『笑林広記鈔』1778…35,105,136?

* 以上の日本で出版された中国笑話とは、類話の関係に止まっており、直接の関係は認めがたい。

『開口新語』1751…29,71,99,117

* 29,91 は類似性高い。

『笑話出思録』1758…56,72,102,116,127

『巷談奇叢』1768 (『奇談一笑』)…102

『前戯録』1770…25,127

『善謔随訳』1770…27,36,38,50,133

『胡廬百転』1797…2,113

『笑堂福聚』1804…27,86,136

・*以上の漢文笑話集とは、同話もいくつか指摘できるが、直接の関係か、偶然の一致かは確定しがたい。

なお、本稿の範囲を超えるが、後出の漢文笑話集『訳準笑話』1824 とは、9,15,23,35,51,55,57,64,86,92,101,105,122,157 各話の類似性を指摘できる。後世の漢文笑話集への影響は認められるかもしれない。

総じて言えば、江戸小咄の最盛期と言われる安永期以降に大阪で出版された本との関係が深い。『花間笑話』は基本的に噺本の翻訳だとする岡説が妥当だと言えよう。ただ、本稿では未詳のものが多く、『花間笑話』が噺本未収の話を取めるかもしれないという森の言う可能性も否定できない。一方、石崎の言う『花間笑話』中の支那的要素については、その直接の影響は認めがたい。なお、巻末の2編のみ笑話でないとする岡の意見には補足したい点がある。

筆者の見落としを除けば、本稿で出典を突きとめることができなかった 56 話の出典は、本稿の調査範囲以外に求めるべきだということになる。その内、末尾の数話は、笑話以外の可能性が高い。ここでは、154話 157 話について述べておきたい。

154,157 話の項で、『箕山文稿』『柚園数記』について指摘した。両書は大阪大学懐徳堂文庫にある旧懐徳堂遺書である。『箕山文稿』(1805 頃?)は中井履軒の弟子竹島衡(-1837)の漢文集。同書の「小史篇」は『常山紀談』『駿台雑話』などに見える歴史小編の漢文訳を集めており、154,157 話もこの中に見える。『柚園数記』(1800-1834)は履軒の子中井柚園(1795-1834)の漢文集。ここにも、『箕山文稿』「小史篇」中の話の柚園による漢文訳が多数見える。その他、同じく懐徳堂文庫に残された漢文集『紫蘭叢』は、其原、衡ら数人による漢文の習作を収録しており、ここにも「小史篇」中の話がいくつか見える。懐徳堂では軍談もカリキュラムに取り入れられており、軍記を読み、その文章を漢文に訳し合うという練習がされていた様子が窺える。ちなみに、『花間笑話』の作者三村其原も竹島衡と同じく履軒の高弟である。『花間笑話』序に漢文の勉強のため話を収集したと述べるのは、文言通りとらえるべきであろう。

注

(1) 岡雅彦「本書に収める話は全て先行の咄本に見出されるものの如くである。」(岡 p.455)「このように本書の噺は全て先行噺本を利用したと思われるが、最後の二話と「徐長卿伝」の一話は笑話ではない。」(岡 p.456)

(2) 石崎又造「(支那笑話の輸入に)次いで支那笑話を模倣した漢訳の笑話が発生した。之等の流行の影響によって江戸笑話が興隆した」(石崎 p.373)という基本認識の下、各漢文笑話集について、「支那的要素」と「国文及び漢文の笑話に拠るもの」を指摘する。『花間笑話』については、前者は 35,105,113,136 の 4 話、後者は 26 話を指摘する。また、『花間笑話』の序に漢文学習のためと述べるのは韜晦だとする(石崎 p.321)。

(3) 森銑三「口から口へ伝承せられてある俗間の笑話で、…その原形はいくらかは壊されても、面影だけでも今日に伝へらるゝことを得たものが若干あるのであらうとすると、…」(森 p.185)

書名略称(参考文献)

- 辞典 = 『江戸小咄辞典』(武藤禎夫編,東京堂出版,1965)
 事典 = 『江戸小咄類話事典』(武藤禎夫編,東京堂出版,1996)
 大系 * = 『噺本大系』第 * 巻(武藤禎夫・岡雅彦編,東京堂出版,1975 ~)
 岩波上 = 『元禄期軽口本集』(『近世笑話本集』上)(武藤禎夫編,岩波文庫,1987)
 岩波中 = 『安永期小咄本集』(『近世笑話本集』中)(武藤禎夫編,岩波文庫,1987)
 岩波下 = 『化政期落語本集』(『近世笑話本集』下)(武藤禎夫編,岩波文庫,1988)
 集成 * = 『日本小咄集成』* 巻(浜田義一郎・武藤禎夫編,筑摩書房,1971)
 滑稽 * = 『滑稽文学全集』第 * 巻(古谷知新編,文芸書院,1918,1919)
 東洋 102 = 『昨日は今日の物語』(武藤禎夫訳,平凡社東洋文庫,1967)
 東洋 192,196 = 『江戸小咄集』1,2(宮尾しげを編,平凡社東洋文庫,1971)
 岩波文庫本 * = 『笑府』* 巻(松枝茂夫訳,岩波文庫,1983)
 田辺 = 『江戸小咄大観』(田辺貞之助著,青蛙房,1972)
 石崎 = 『近世日本に於ける支那俗語文学史』(石崎又造著,清水弘文堂,1967,初版 1940)
 岡 = 『国文学未翻刻資料集』(大久保正編,桜楓社,1981)中の岡雅彦翻刻「花間笑話」
 森 = 『森銑三著作集』10(森銑三著,中央公論社,1971)中の「三村崑山の花間笑話」